

【議題②】

＜医師バンクの取り組み＞

- ・茨城県：設置なし
- ・茨城県医師会：設置なし

茨城県が運営する茨城県地域医療支援センターでは、県内病院の医師求人情報をホームページ「いばらきドクターズライフ」に掲載・紹介している。

＜女性医師支援の取り組み＞

・茨城県医師会では、茨城県から茨城県医療勤務環境改善支援センター設置業務を受託し、医業経営相談窓口と女性医師等就業支援窓口を設置・運営している。

女性医師等就業支援窓口では、現役の女性医師に女性医師等就業支援アドバイザーを委嘱する他、筑波大学（筑波大学附属病院女性医師看護師キャリアアップ支援システム）とも連携し、女性医師等の出産・育児等と勤務との両立を支援するための助言や復職・キャリアアップのための技術研修病院の紹介等を行い、女性医師等の離職防止や再就業の支援を図っている。

平成30年度に発行したWork&Life SupportGuide 女性医師応援ブックについては、県内で広く活用しているが、現在時代に即した内容にするべく修正作業中である。全ての働く医師に向けて発信出来るよう検討・周知していく予定である。

また、医師向け県内病児保育の構築・利用を検討する県内病院への周知及びサポートを行っており、今年度はより詳しく県内の状況を把握するため、対象医療機関にアンケートを実施した。支援を必要としている医療機関には個別のサポートを実施している。

【実績】 女性医師からの相談対応実績： R2-0件、R3-0件、R4-2件、R5-2件

医師向け病児保育支援体制構築補助金を利用した医療機関（H30～R5） 11件

【参考資料】 筑波大学附属病院女性医師看護師キャリアアップ支援システム/女性医師応援ブック  
\_p. 13-14

【議題③】

- ・タスク・シフト/シェア導入について

働き方改革で、女性医師をサポートしていた男性医師の時間外削減が開始された。

また、タスク・シフト/シェア導入を検討するため県内の好事例等を収集する医療機関も多い。医師全体の仕事量の削減が必要であり、他職種へのタスクシフトの他、シニアドクターの積極的な活用を検討する必要があると考える。現在茨城県ではドクターバンクの設置はないが、女性医師支援を中心としたドクターバンクを、シニアドクター支援も見据えてさらに事業拡大すると良いのではないかと考える。

- ・男性育休について

茨城県内でも、男性育休取得を希望し3か月取得した医師の実例もあり、対応する管理者の意識も変化しているように思われる。医師不足の茨城県において、性差を問わず医師の勤務環境整備は必須である。昨年度主催した医療におけるダイバーシティ推進フォーラムにおいて、男性育休取得、夫婦で協力してお互いに専門医取得をした医師などの講演を行った。女性だけでなく、性別・年齢・健康状態等、ライフイベントに合わせた柔軟な働き方のサポートは今後の課題である。

- ・シニアドクターの活躍について

茨城県・茨城県医師会としての取り組みは行っていないが、本会でのアンケート結果（2022・2023年度勤務医委員会答申）では、40～70歳代医師のおよそ4割が退職後の自身の生活について高く関心を持っていると回答していた。医師不足の本県において、シニアドクターの活躍が医療人材確保、地域医療の充実に繋がるため、本会としても検討を深めていきたい。